

■トラブル要因：空調ゾーニングが不適切

前記、[冷房(暖房)の効きが悪いー空調ゾーニングが不適切] を参照。

※負荷バランスの悪い(ピーク負荷時間のずれ・負荷密度差)複数の部屋を同一空調機で負荷処理する場合、負荷の大きい側で制御すれば、小さい側は冷えすぎ(暑すぎ)となり、負荷の小さい側で制御すれば、大きい側は冷房(暖房)の効きが悪くなる。

チェック項目

- ☐異なる方位を同一空調機で負荷処理していないか？
- ☐ペリメーターとインテリアゾーンが同一空調機系統になっていないか？
- ☐負荷密度の異なる部屋を同一空調機で負荷処理していないか？
- ☐室用途の異なる部屋(会議室と事務室等)を同一空調機で負荷処理していないか？

■トラブル要因：風量不足

快適な室内環境を維持するためには、空調機器の循環風量が適正でなければならない。

室内で温度むらが発生する原因としては空調機器の風量不足が考えられる。

トラブル要因として

(1) 吹出温度差が大

(2) 換気回数不足

等が考えられる。

(1) 吹出温度差大

吹出温度差が大きくなると、負荷密度が同じでも必然的に給気風量は少なくなる。

それにより室内の換気回数が減少し、室内での温度むらが出やすくなる。

吹出温度差と換気回数（天井高さ 2.8mH の場合）

		室内顕熱負荷 (w/m ²)									備 考
		50	75	100	125	150	175	200	225	250	
吹出温度差	4℃	13.3	20.0	26.7	33.3	40.0	46.7	53.3	60.0	66.7	室温 20℃
	10℃	5.3	8.0	10.7	13.3	16.0	18.7	21.3	24.0	26.7	室温 26℃
	12℃	4.4	6.7	8.9	11.1	13.3	15.6	17.8	20.0	22.2	室温 28℃

※吹出温度差が大きく負荷密度との関係で室内換気回数が10回/h以下となる場合は、室内空気の循環を別途考慮すべき場合がある。

チェック項目

- ☐ 空調機吹出温度差が大きくないか？
- ☐ 室内換気回数は10回/h以上確保出来ているか？

(2) 換気回数不足

空調室において換気回数が少ないと、室内で温度むらが出やすくなるため、少ない場合は別途対応が必要な場合がある。

※空調室内の換気回数が少ない場合は、別途循環用機器等を設置した方が良い場合がある。

チェック項目

- ☐ 室内換気回数が少ないか？
- ☐ 室内換気回数は10回/h以上確保出来ているか？